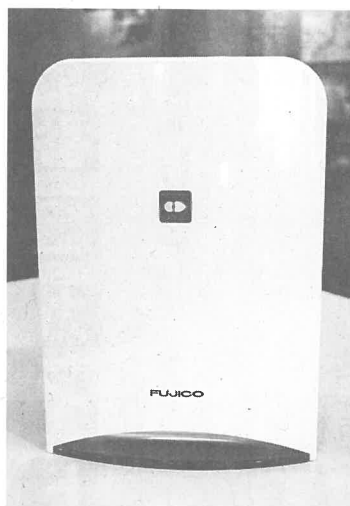


除菌装置を増産へ

北九州

フジコー 光触媒技術用いて開発

北九州市戸畑区の金属加工工業「フジコー」(萩尾寿昭社長)が光触媒技術を用いて開発した空気消臭除菌装置「富士の美風 ブルーデオ」の写真が脚光を浴びている。新型コロナウイルスによる衛生意識の高まりと、類似ウイルスを減少させることが実証されたこととあり、注文が殺到。同社は受託生産(OEM)も含め年約5000台から20倍超の年11万台に増産することにした。一般家庭向け商品の販売にも傾斜を強める。



ブルーデオの新型コロナウイルス自体への効果はまだ実証されていないが、似た構造を持つネコ腸コロナウイルス(FeCV)の不活化試験を北里環境科学センター(相模原市)に依頼。フィルターに付着した2600万個のウイルスが、光照射後4時間で50個未満となる成果を得た。萩尾社長は「長年培ってきた「溶射」技術を生かし、新型コロナウイルスと戦う社会の力になりたい」と意気込みを語る。

同社は製鉄炉のメン

テナンスや加工を主業としてきたが、鋼鉄業界の低迷の中で新事業を模索。金属加工の技術を生かして2011年に光触媒事業に本格参入した。光触媒は光

に反応して電子を放出し、空気中の酸素や水分と反応して有害物質を無害化する技術。同社は粉末状の酸化チタンなどの金属を800度以下で素材に

吹き付ける技術を確立し、高い消臭作用と耐久性を備えた。インフルエンザウイルスなどの滅菌効果が実証されている。

【浅野翔太郎】